

今月の安全運転管理

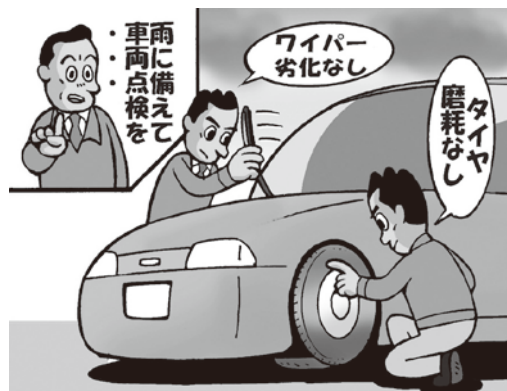
車の整備・点検 梅雨の事故防止の第一歩

①梅雨の時期の事故防止を指導しよう

- 雨に備えたメンテナンスを徹底しよう
- 泥はね運転防止を図ろう

②雨の降り始めの事故防止をすすめよう

- 雨の降り始めの危険を周知しよう



雨に備えたメンテナンスを徹底しよう

雨の多くなる梅雨を迎え、降雨時に重要な役割を担うパーツ類のチェックをしっかりと行う必要があります。

まず、タイヤの残り溝や摩耗状態をチェックしましょう。すり減ったタイヤで走行していると、停止距離が延びたり、スリップなどの危険があります。

また、雨天時の視界をしっかりと確保するために、ワイパーの動作状況や拭きムラがないかを確認しておきましょう。さらに、フロントガラスの油膜除去やミラーのコーティングなども行っておくとよいでしょう。

梅雨の時期に備えて、しっかりとメンテナンスを行うておくことが、交通事故防止につながります。

泥はね運転の防止を指導しよう

雨天時の運転で注意を払

わなければならぬのが泥はねです。

泥はね運転は、歩行者等に対する迷惑行為であり、道路交通法でも禁止されています。違反すると普通車で六、〇〇〇円の反則金が科せられます。

社名の入った車両による泥はね運転は、企業のイメージダウンを招くことにつながります。ある実験では、水たまりを走行した際に、時速十キロでも水しぶきが歩行者の膝の高さまで上がったという結果もあるので、注意が必要です。

雨の日は、水たまりのある場所では、徐行することを徹底させ、泥はね運転の防止を図りましょう。

雨の降り始めの危険を周知しよう

雨の降り始めは、事故が多発することが知られています。主な理由として、

① 路面にホコリや油分、泥

などが浮いてきて滑りやすくなる。

② 「濡れたくない」と思っている歩行者や自転車、安全確認をせずに飛び出し

てくる。

③ 雨の降り始めは、スピードダウンを徹底することを指導しましょう。マンホールの蓋など、金属がむき出しのところは、濡れると層滑りやすくなるので、とくに注意させてください。

また、歩行者や自転車を見かけたときは、飛び出してくることを予測して、その動静をしっかりと確認するよう指導しましょう。

さらに、視界を確保するとともに、自車を目立たせるため、必要に応じてライトを点灯することを呼び掛けます。